

【震災募金口座】

振替 00140-9-180881

宗教法人日本バプテスト連盟総務部



大地に仕える人

——2013年10月28日神学部チャペル・メッセージより抄録(下)——

西南学院大学神学部教授 須藤伊知郎

イエスは人間と自然、(聖書にはもともと神と無関係に自ずから生じる自然という概念はないので、より厳密には)他の被造物の関係をどのように捉えていたのだろうか。マタイ10,29b並行ルカ12,6bが参考になる。迫害を恐れるなど勧告する文脈で、雀について以下のイエスの言葉が伝えられている(私訳)。

マタイ10,29b 「それらのうちの一羽でさえあなた方の父なしでは地の上には落ちることはないだろう。」

ルカ12,6b 「それらのうちの一羽でさえ神の面前で忘れ去られたままではない。」

これは被造物に対して等しく注がれている神の限りない愛を語っている言葉である。ルカ版よりもマタイ版の方が明らかに理解しやすく、こちらにおそらくイエスの元来の言葉遣いが保存されている。雀一羽が落ちる時も、その死に神が伴ってくださるのだ、というのである。人間の価値の基準では、雀は「二束三文」に売られるつまらないものだが、神の目にはどうしても良い被造物というものはない。神は最後まで配慮し、その死に至るまで伴ってくださるのだ。

この解釈が正しいとすれば、直後のマタイ10,31b並行ルカ12,7bに出てくる「あなた方は多くの雀たちよりも優れている」という言葉は、この理解にそぐわない。これはカル・ヴァ・ホメル「小から大へ」というラビ文脈に広く見られる論証法で、小さな雀に当てはまることは、なおさらそれより大きな人間に当てはまる、ということである。この言葉は、人間を雀よりも優れたものと考えており、人が他の被造物の上に立っている構図となっている。この言葉はほとんど同じ形で、マタイ6,26並行ルカ12,24にも出て来る。「あなた方は鳥たちよりずっと優れている」。ここでも「思い煩うな」という文脈で、人間の価値基準では無価値なものと看做されているカラス³を例に、神が被造物に注ぐ愛が語られているので、人間を鳥たちより優れたものとするこの言葉はそぐわない。おそらくこの言葉は、両方の箇所から人間中心主義の「常識」に引きずられて付加されたもので、史的イエスは語っていないと思われる。そうだとすると、鳥たちに説教をしたと伝えられるアッシジのフランチェスコは、鳥たちと人間を等しく神の愛が注がれる被造物と捉えていたイエスの信仰を正しく継承していたことになる。

私たちは聖書の創造信仰から「大地を支配する人」ではなく、「大地に仕える人」というメッセージを選び取り、イエスの言葉から、すべての被造物に対して神の限りない愛が等しく注がれている、という信仰を受け取るべきであろう。この信仰の立場に立って、宣教の事柄として原発の課題に取り組んでゆきたい。

¹太字部分はマタイとルカの言葉が一致しており、確実に両者が資料として使っているQ文書に遡る。

²岩波版佐藤研訳のマタイ10,29への注を参照、「すなわち、地に落ちる時は神が支えつつ、共に落ちてくれる、の意。『父なしに』をほとんどすべての訳は『父のお許しがなければ』(新共同訳)などに敷衍しているが、あらずもがなである。」

³史的イエスはおそらくルカ12,24にあるように、神の愛が「汚れた」ものとされて忌み嫌われていたカラスに注がれていることを語っていたが、福音書記者マタイはこれに躰いて、一般的な「鳥」に書き換えている。

教会の放射線量の計測、
「除染」に関してのご案内

原発課題班では震災以降、原発事故の影響による放射線量の上昇が考えられる地区(主に東北、北関東、関東)の諸教会とその関連施設に、放射線量の計測、それに基づく可能な範囲での「除染^{*}」費用の支援、そして事後の計測確認をしてきました。費用の支援は1件につき、原則上限50万円で、すでに7教会が実施されました。事故から3年以上が経過しましたが、まだこのプログラムを申請されていない教会を中心に、もう一度呼びかけさせていただきます。希望される教会は東日本大震災被災地支援委員会までお問い合わせください。

* 放射能による汚染を除くことは出来ないのがこの問題の深刻なところ。実際には、業者等に依頼して中に埋めたりコンクリートでカバーをしたりしてきました



環境変化に伴い除染を進めている
郡山コスモス通りキリスト教会

□ 2013年度東日本大震災被災地支援委員会 活動報告 皆様のご支援により以下の通り支援活動を進めることができました。ありがとうございました。

I. 被災地支援募金

活動資金(収入項目)	2013年度実績
募金 一般募金(国内)+(国外)	19,203,606
指定募金(海外)	3,252,795
募金留保金から取崩し	9,013,568
合計	31,469,969
前年度繰越金	9,086,795
震災資金 総計	40,556,764

<2013年度活動の特記事項>

- 遠野ボランティアセンター閉鎖 → 2014年3月31日
- 現地支援担当(金子千嘉世師)の任務終了 → 2014年3月31日

II. 被災地支援活動

活動項目(支出項目)	2013年度実績	2013年度活動詳細
1. 被災地教会支援	2,815,494	
		福島旭町教会子供教育支援(2,485,494円)、被災地牧師特別保養支援(330,000円)
2. 被災地教会活動支援	6,714,305	
		被災地にある教会からの被災地仮設住宅支援(4,408,100円)、支援車両の維持管理(2,306,205円)
3. 遠野VCによる被災地域支援	8,996,271	
		遠野VC施設光熱費&修理費用等(2,428,035円)、東北連合外からのボランティア旅費(1,222,884円)、現地支援担当活動費(5,328,448円)、諸経費(16,904円)
4. 原発課題への取組	4,609,965	
		福島旭町教会&郡山コスモス通り教会子ども避難保養プロジェクト(1,936,155円)、被ばくに伴う検診(152,406円)、線量測定及び除染(1,339,713円)、放射線避難のための移住支援(500,000円)、会議開催費用他(681,691円)
5. 東日本委員会	5,334,245	
		海外対応(237,429円)、神学フォーラムII開催費用(1,628,913円)、他団体との協働(235,700円)、事務局人件費(2,554,177円)、会議開催費用他(678,026円)
6. 事務通信費	407,810	「祈りの絆」発行、ブログ発信費用、その他諸経費
合計	28,878,090	
2014年度へ繰越	11,678,674	

2014年度東日本大震災被災地支援の広報誌は次の通り発行予定です。

- ・「現地支援委員会ニュースレター」→ 奇数月に発行
 - ・「祈りの絆」→ 偶数月に発行
- 引き続き支援の働きをお支えください。